

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol and risk of lung cancer among Japanese men: data from a large-scale population-based cohort study, the JPHC study 日本人一般住民男性における飲酒と肺がんとの関連について	
執筆者	
Shimazu T, Inoue M, Sasazuki S, Iwasaki M, Kurahashi N, Yamaji T, Tsugane S; Japan Public Health Center-based Prospective Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes Control. 2008 Dec;19(10):1095-102. Epub 2008 May 21.	
キーワード	
飲酒、肺がん発症、日本人、男性、一般住民、前向きコホート研究、JPHC	
要 旨	
<p>目的： これまで大規模研究やメタアナリシスにおいて飲酒と肺がんのリスクに関する検討がなされてきたが、一週間あたり 450g 以上の大量飲酒と肺がん発症の関連は明らかではない。喫煙状況別に飲酒と肺がん発症との関連を検討する。</p> <p>方法： 1990 年から 1994 年にベースライン調査を行い、がん既往のない 40 から 69 歳の 46,347 人の日本人一般住民男性 を対象に前向きコホート研究を行った。Cox 比例ハザードモデルを用いて飲酒の肺がん発症に対するハザード比(HR)と 95%信頼区間(95%CI)を算出した。飲酒のカテゴリーは非飲酒者(一月あたり一日未満)、機会飲酒者 (一月あたり 1-3 日)、飲酒者 (一週間あたり 1-149g, 150-299g, 300-449g, 450g 以上) に分類した。調整因子は年齢、調査地域、喫煙状況、受動喫煙状況、肺がんの家族歴とした。</p> <p>結果： 14 年間の追跡期間中、肺がん発症を 651 例確認した。喫煙者において飲酒と肺がんとの関連を認めた。全体の一週間あたり 450g 以上の大量飲酒の多変量調整 HR は機会飲酒者を対照とすると 1.31(95%CI, 0.89-1.94)であった。喫煙の有無により検討すると一週間あたり 450g 以上の大量飲酒の多変量調整 HR は非喫煙者では 0.58(95%CI, 0.26-1.30)、喫煙者では 1.69(1.05-2.72)であった。</p> <p>結論： 本研究結果から、飲酒は喫煙者を除くと、肺がんの独立した危険要因ではなかった。</p>	